

〔第27回〕

GSRC seminar

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

アミロイド前駆体タンパク質分解促進化合物 によるアルツハイマー型認知症治療薬の開発

ケミカルバイオロジー研究部

今井 剛 部長

2024年7月16日(火) 15時00分～

第1研究棟2階大会議室

糖尿病とアルツハイマー型認知症は正の相関関係があることはよく知られた事実である。当センター里部長・篠原副部長らのグループはアルツハイマー型認知症およびその他の認知症患者に糖負荷テストを行い、血中A β 40およびA β 42を測定した。するとアルツハイマー型認知症患者群では糖負荷後15～30分で一過的にA β 40とA β 42の有意な上昇がみられたと報告した (Dementia and Geriatric Cognitive Disorders, 34(1), 25-30, 2012)。糖がシグナルとなり、短時間 (15～30min) でA β 40およびA β 42共に変化が見られることから、Post翻訳レベルでアミロイド前駆体タンパク質自身の修飾 (タンパク質分解、切断、リン酸化等) がアルツハイマー型認知症患者特異的な原因であると推測された。

この機構を利用して、アルツハイマー型認知症治療薬の開発を行っている。現在、複数の化合物に絞り、アルツハイマー型認知症モデルマウスに投与実験を行っている。

座長：今井 剛 部長

連絡先：GSRCセンター長室(内線5002)